

# 熊本学園大学 外国語学部 第07号

## 英米学科 GAZETTE

平成29年10月  
発行・編集  
熊本学園大学 外国語学部

### 巻頭言

#### 日本人になる

外国語学部教授 英米学科長 神本 忠光

留学先の大学でパーティなどの折に、現地スタッフや留学生から、日本人や日本文化について尋ねられることがある。答えられた時は鼻高々だが、たいていの質問は答えに窮することが多い。日本のことをあまりにも知らないのに啞然とさせられる。似たような経験をしたことがある人は少なくないだろう。日本人や日本文化全般を他者の視点から客体化する訓練の機会が少なく、浅薄な知識しかないことが主な原因であろう。

英米学科の目指す教育は、英語コミュニケーション力の向上であるが、その中には複眼的な視点の獲得も含まれている。自国について学び、フランス語などの第2外国語学習を通して養成することができる。日本人で「ある」から、「なる」への道程と言ってもよからう。

今号は、英語以外の科目を担当している同僚の特集を組んだ。

上に述べたような観点から、英米学科に必要欠くべからざる役割を担う面々である。



#### 英米学科の最新ニュース

7月23日(日)と8月9日(水)の両日に、オープン・キャンパスが開催された。熊本を中心に、九州各地から高校生だけでなく、たくさんの保護者の参加を得た。英米学科紹介、NS教員による模擬授業(「出川 English はヤバイ」他)、学科教員による個別相談会、在学生による相談会、キャンパス・ツアー、ランチ体験など。★夏休み中に語学研修(アメリカ・イギリス)や海外就業体験(香港)に出かけていた学生が、それぞれ所期の成果を収め、無事帰国した。

### 英米学科での役割

外国語学部英米学科教授 赤井 恵子

専門：日本近代文学

担当科目：日本語文章表現、日本近代文学

#### 英米学科で教えていること

大学教員になってからずっと、論文の文章表現を教えている。英米学科ではもう20年間余り、学生の小論文を添削してきた。「英語を勉強しに入学したのに、日本語の勉強など今さら」と思う学生もいるらしい。書きことば、特に論理構築において自分はまだまだである、と自覚させることから授業を始めている。私が文章表現の専門家であるというわけではない。ただ、長年論文を書いてきて、文章表現の上では大過なく過ごしてきた。その間身につけてきたルールや工夫を、できる限り学生に伝えようとしているだけである。

授業における私の本領は、日本近代文学作品を創造的に読むための方法を教えることである。外国語を学んでゆく際に、母語である日本語の言語的伝統を知らないままでよいはずがない。その伝統を、知識として身につけるのではなく作品を読み込んでゆく実際の作業の中で身をもって知ってほしいと思う。

以上が、英米学科のカリキュラム上「日本研究」として位置づけられている私の担当科目の概要である。

外国語学部英米学科教授 伊藤 友子

専門：教育学(教育社会学)

担当科目：道徳の理論と方法、特別活動の理論と方法

#### 英語の教師を目指す学生への指導

私は、熊本学園大学の教職課程担当の教師ですので、英米学科では、中学・高校の「英語」の教員免許を取得する学生のための授業を担当しています。ただ、専門が「英語」ではないので、英語の専門家である先生方と協力し、「英語」の授業以外の「教師の専門性(理論と実践)」について研究し、それを基に将来の「英語教師」を目指す学生の指導をしています。

「英語教師」の仕事では、もちろん授業(「英語」)の指導力が最も重要ですが、教師の仕事は授業だけではありません。生徒集団を掌握しより良い指導をする「学級経営」の力量、個々の生徒を的確に理解し指導する「生徒指導」の力量等が必要です。そのような力量を支える、正確かつ幅広い知識に裏付けされた指導力を育成するために、担当科目等を通して努力しています。

教師が働く今日の学校は、多くの問題を抱えていることが明らかにされています。しかし、英米学科の4年間を通して、そのような厳しい状況にも真摯に向き合い、かつ柔軟に対処できる力量を備えた「英語教師」を養成することが、私の役割と考えています。

外国語学部英米学科教授 岡村 一

専門：スペイン文学

担当科目：スペイン語I,II,III,IV

## 英米学科におけるスペイン語教育

母は雑煮に砂糖を入れた。力関係からか、父は文句を言わなかった。これが普通だと思っていたわたしは、よそで初めて雑煮を食べたとき、その甘くないのに、変わった家だと思った。変わっているのは、うちのほうだった。

わたしが授業で教えている1年生の西欧語についての意識も、同じようなものだろう。英語しか習ったことがないから、他の西欧語も英語と同じようなものだと思っている。しかし、英語は西欧語の中では、とても「変わった」言語だ。端的な例は動詞の形の少なさ。go を例にとると、go, goes, went, going, gone しかない。スペイン語では、各時制で、基本、三つある規則動詞の型のひとつだけでも、形が六つある。わたしの知る限り、ほかの西欧語も似たようなものだ。これ以外にも、他の西欧語では共通で、英語だけが違う点はいくつもある。1年、週2回の授業では、そうそうスペイン語が使えるようにはならない。しかし、学生たちのこういう言語観の「歪み」は、いくらかでも正せるのではないか。そしてそれは、彼らの一生の教養のひとつとして、貴重なものになると考えている。

外国語学部英米学科准教授 八木 昭臣

専門：ドイツ文学

担当科目：ドイツ語科目、日本語文章表現

## 日本語の文末

「日本語文章表現」の授業では主にレポートや論文で用いるような論理的な文章の書き方を指導しています。日本語は文末表現の豊かな言語ですが、そのことが時には冗長さや曖昧さの原因ともなるようです。

ところで、ドイツ語の場合でも、関係代名詞などで導かれる従属文では日本語と同じように定動詞を文末に置きます。文末に置かれた動詞は文全体をまとめる働きをするようです。この点、日本語の文章は、一文一文まとめながらつないでいく形になっています。日本語はそもそも曖昧なのではなく、考えをまとめて結論を述べることに向いているのかもしれませんが、一つには、断定口調を和らげるために、多様な文末表現を必要としているのではないのでしょうか。

ともあれ、テレビを見ていて以前から「～とは思いますが」という言いまわしが気になっていましたが、最近では「～して御座います」が気になっています。

外国語学部英米学科准教授 塩入 すみ

専門：日本語教育

担当科目：日本語教育 I II、日本語教授法 I II

## 日本語教員養成課程の概要

2010年4月、熊本学園大学に日本語教員養成課程が開設され、これまで6回修了生を送り出しました。この課程は、英米学科の科目にプラスして日本語教育の専門的な科目を学び、最後の実習を経て最短2年間で資格が取得できます。課程の最後の実習は、韓国、台湾、ニュージーランド、そして国内の専門学校で行っています。ニュージーランドの実習は英語の研修も兼ねており、ハードな内容ながら人気があります。修了生の中には、中国・シンガポール・台湾・アメリカの高校や語学学校で日本語を教えている人もいます。

大学4年間の間に大きく自己成長したいと望んでいる人には、海外での日本語教育実習をお勧めします。昨年のエピソードですが、私が実習生より一日遅れて韓国の高校に到着し、ちょうど実習をしているクラスに入り、その光景を見た瞬間、驚きました。実習生たちは普段私の知っている学生とは全く別の顔をしていたからです。どの顔も、責任感、リーダーシップ、そして異なる文化の相手と心を通わせようとする誠意に溢れて輝いていました。日本語教育実習の醍醐味は、こうした異文化経験による自己の変化にあります。日本語教員の資格は異文化コミュニケーション能力の証明でもあります。



アメリカ大学町でのハロウィーンの一コマ



ハロウィーンの Jack-o'-lantern 完成

## 編集後記

今号で、英米学科に所属する専任教員全員を紹介できたことになる。しかし、私たちだけでは、学科の幅広い多種多様なカリキュラムを網羅できない。あまたの非常勤講師の先生方にも学科教育の一翼を担って戴いている。その科目名をいくつか紹介する。「翻訳法」、「通訳法」、「映画英語」、「子ども英語教育入門」、「英語音声学」、「日本文化概論」、「イギリス史」、「アメリカ史」など枚挙にいとまがない。(TK)

編集人 神本 忠光 (英米学科長)

〒862-8680

熊本市中央区大江 2-5-1

TEL: 096-364-5161 (代表)

Mail: kamimoto@kumagaku.ac.jp

